備後は今年10周年

2024年度（令和6年度）

第2回 びんご圏域活性化戦略会議

2024年10月28日（月）

目次

開　会

　　会長挨拶（福山市長）

議　題

　1　第３期びんご圏域ビジョン 注力分野

　2　注力分野に関する取組

　3　その他の取組に関する状況報告

閉　会

開　会

会長挨拶（福山市長）

議　題

1　第3期びんご圏域ビジョン 注力分野

（1）今後注力する主な分野

人口や経済などの将来予測（地域の未来予測）や社会情勢、事業者アンケートなどを踏まえ、**連携を強化する分野を整理（経済関連を掲載）**

今後、各市町や産業界、大学等との**連携事業の構築につなげていく**

（ビジョンの柱）

経　済

※ **太字**：2期ビジョンで既出だが、今後も取り組む重要な項目
※ ***太字斜字下線***：3期ビジョンで新たに注力する項目

① 多様な人材の活躍

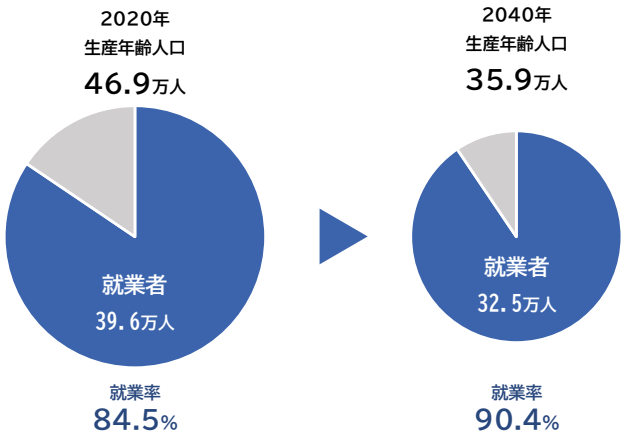
背　景

- 人口減少や少子高齢化による人材不足が深刻化
- 進学等で転出する若者が多い
- 地域経済の活力を維持していくためには、2040年時点で、生産年齢人口の約9割の就業が必要と予測されている

方向性

- 若者の地元定着の促進はもとより、高齢者や外国人など***多様な人材が活躍***できる職場環境づくり
- **企業・大学・高校の連携**や、**UIJターン就職**の促進

生産年齢人口の将来推計と
今後必要とされる就業率【地域の未来予測】



② 圏域の稼ぐ力の向上

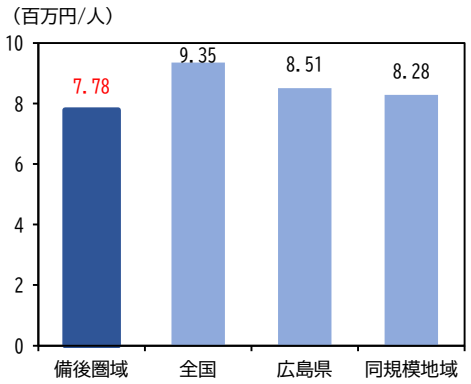
背　景

- 利益を示す付加価値額（従業員1人あたり）は全国や県と比べて低く、資金が域外に流出している
- 観光客数は、新型コロナの影響によって大幅に減少したが、現在は、全国同様に外国人観光客を含めて増加している

方向性

- 中小企業の競争力強化（**デジタル化**や***脱炭素化への支援***）
- ***民間主体の活動の促進***や**大学との連携、地域資源の更なる磨き上げ**
- 広域観光の強化

従業者1人当たり付加価値額



（資料）環境省「地域経済循環分析」分析ツール
2020年試行版　Ver7.0

参考　経済以外の注力分野

都市機能

③ 医療提供体制の確保

方向性

- **医師や看護師等の確保**に引き続き注力
- **公立病院の機能強化**など（福山市、尾道市、笠岡市）、医療資源を生かした取組を推進

※機能強化・相互補完

福山市民病院 周産期母子医療センター開設（2026年度 福山市）
笠岡市立市民病院開院（建替）（2026年度（予定） 笠岡市）
尾道市立市民病院開院（移転新築）（2030年度までの開院をめざす 尾道市）

住民サービス

④ 安心・安全な住民生活への支援

方向性

- 市町共通の地域課題や市町を越えた**生活実態に対応する住民サービス**の更なる連携強化を検討（子育て世代や高齢者への支援、多文化共生、交通、防災　など）

⑤ 持続可能な行政サービス提供体制の構築

方向性

- 限られたリソースで行政サービスを維持・向上させるため、連携による**業務効率化等**を検討
- ***事務の共同化***や***公共施設の共同利用***、**専門人材の更なる活用**などの検討も進める

（2）事業者アンケート

圏域経済の活性化に向けた課題やニーズを把握するため、事業者アンケートを実施

① 概要

【調査対象】
備後圏域に所在する事業者　2,000社

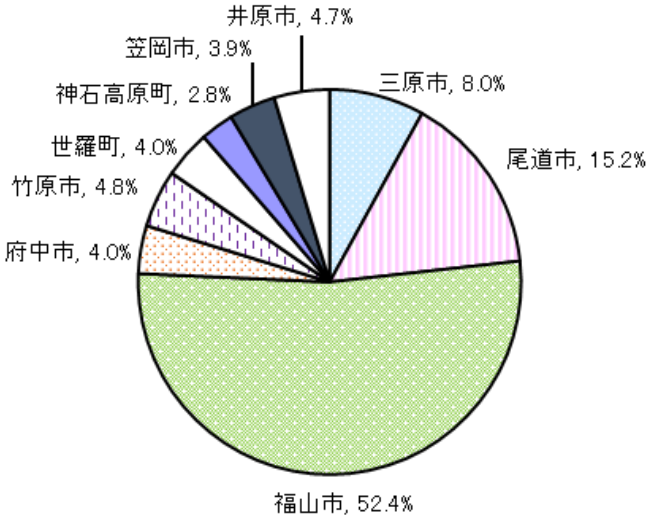
【調査時期】
2024年（令和6年）6月21日（金）～7月11日（木）

【有効回収率】
31.6%（628）

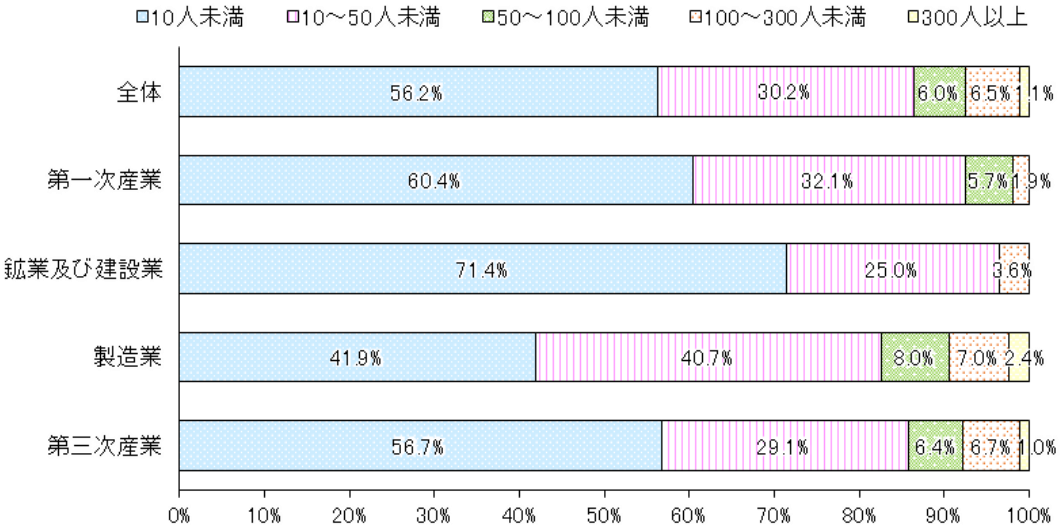
【設問概要】
- 備後圏域の取組の認知度
- 経営上重視している取組（雇用、職場環境づくり、デジタル化など）
- 重要度・満足度（分野別）（販路開拓、雇用対策、観光など）
- 市町が連携すべき取組

など

【参考】回答事業者の所在地・従業者数

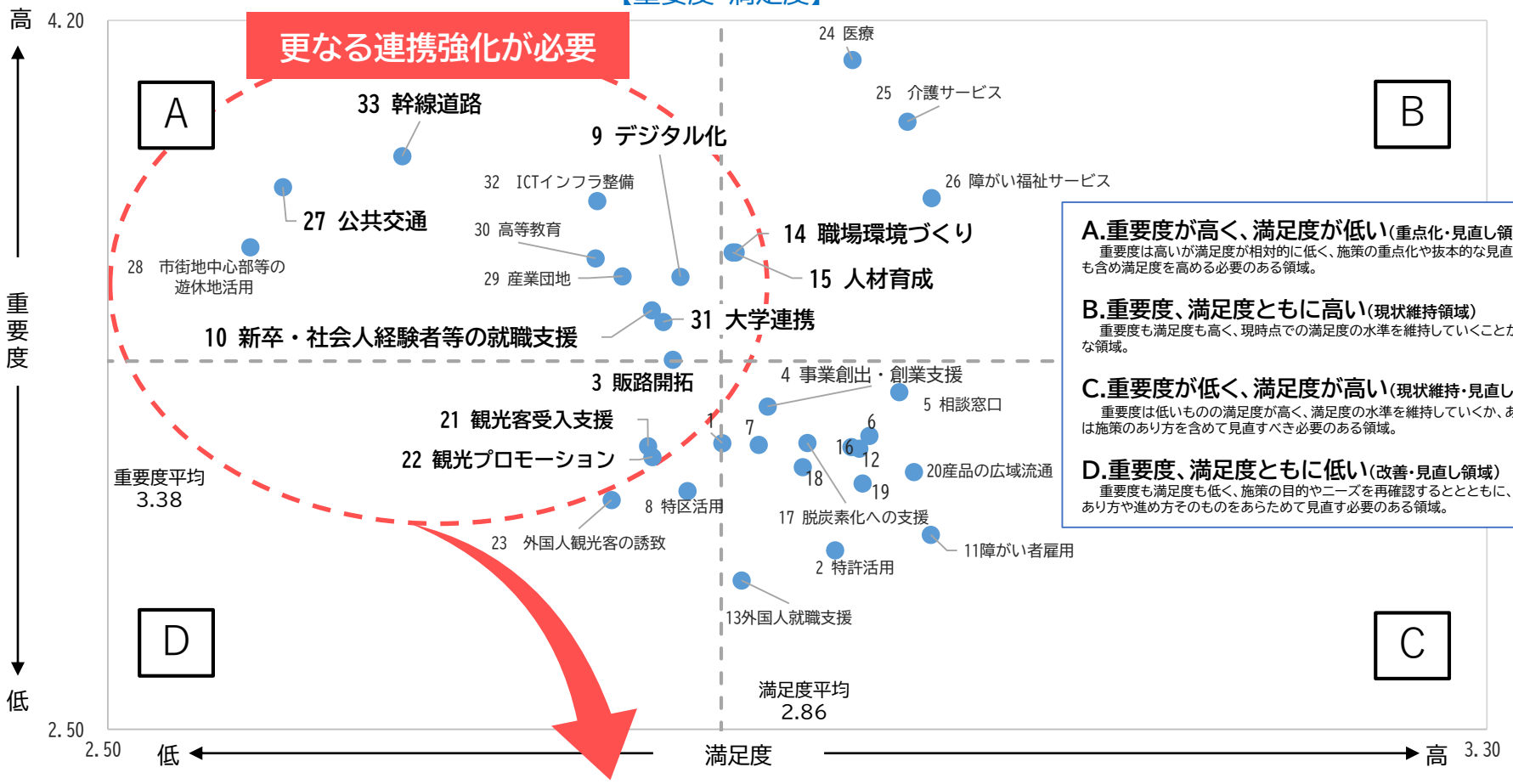


【所在地】



【従業者数】

② アンケート結果



A.重要度が高く、満足度が低い(重点化・見直し領域)
重要度は高いが満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域。

B.重要度、満足度ともに高い(現状維持領域)
重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。

C.重要度が低く、満足度が高い(現状維持・見直し領域)
重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直すべき必要のある領域。

D.重要度、満足度ともに低い(改善・見直し領域)
重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域。

【更なる連携強化の検討が必要な主な項目】 ※( )はこれまでの主な取組

Aエリア:重要度は高いが、満足度が低いもの

- **幹線道路**(国等への要望活動(期成同盟会))
- **公共交通**(福山・笠岡地域公共交通計画の策定)
- **デジタル化**(びんごデジタルラボ)
- **新卒・社会人経験者等への就職支援**(合同企業説明会)
- **販路開拓**(福山ビジネスサポートセンターFuku-Biz)
- **大学連携**(ワインプロジェクト)

(BエリアであるがAエリアに近いもの)

- **人材育成・職場環境づくり**(ものづくり大学、びんごデジタルラボ)

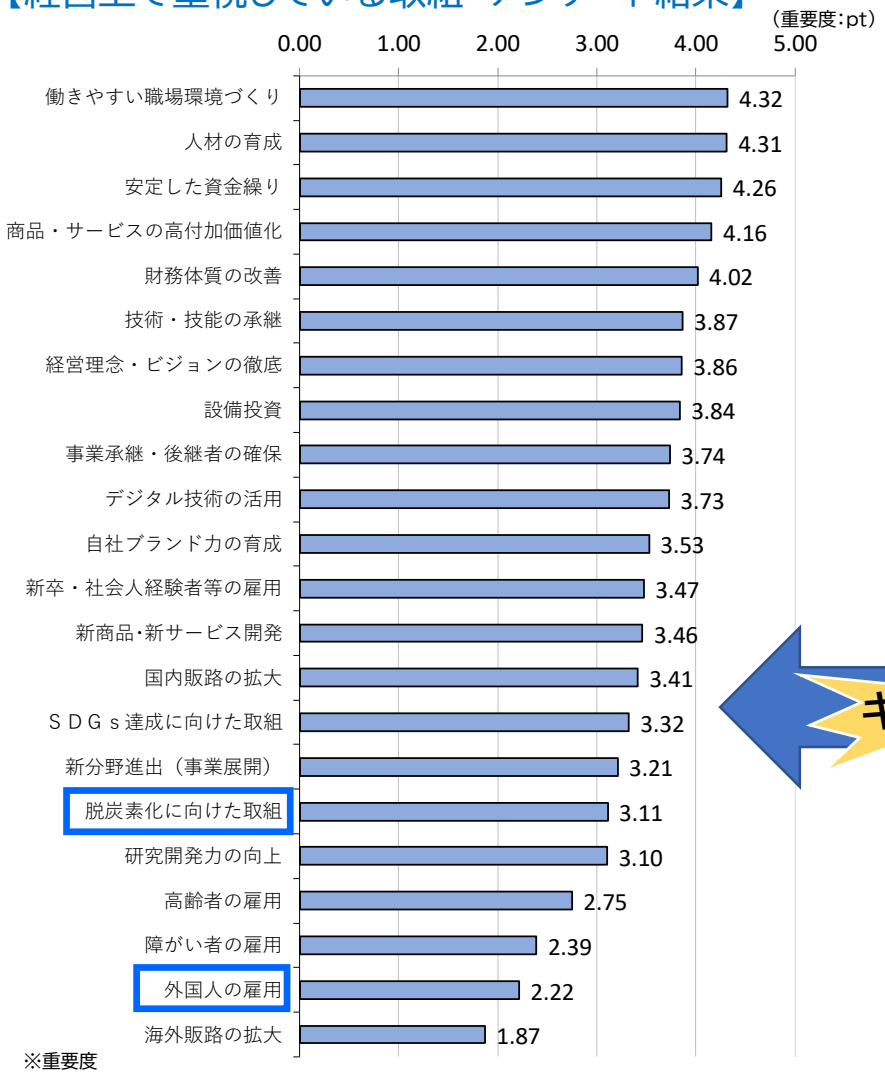
Dエリアの一部:重要度は比較的高いが、満足度が低いもの

- **観光客受入支援・観光プロモーション**
  (食を活用したマイクロツーリズム、HPやSNSなどによる情報発信)

③ アンケート結果から見えたギャップ

事業者の重要度と、将来推計や社会情勢などから今後必要とされる取組の間にギャップが生じている

【経営上で重視している取組　アンケート結果】



※重要度
5つの選択肢（「極めて重要：5pt」～「重要でない：1pt」）の合計を回答数で割った平均値

ギャップ

【取り巻く環境（社会情勢・将来推計）】

脱炭素

- 国では、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルをめざす
- 再生可能エネルギーの導入が拡大
- TCFD※の勧告に従って気候関連情報を開示することで、企業の脱炭素への取組が評価される機会が増加
- 取引先の選定基準に脱炭素への取組が含まれるケースが増加

※ TCFD（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）
気候変動に関連するリスクと機会に関する情報を企業が透明に開示するためのガイドラインを提供する機関

外国人

- 人口減少や少子高齢化の進行によって、人口構造が変化し、労働力人口や担い手の不足が深刻化
- 外国人の流入は増加傾向にあり、将来推計においても、割合は増加する見込み

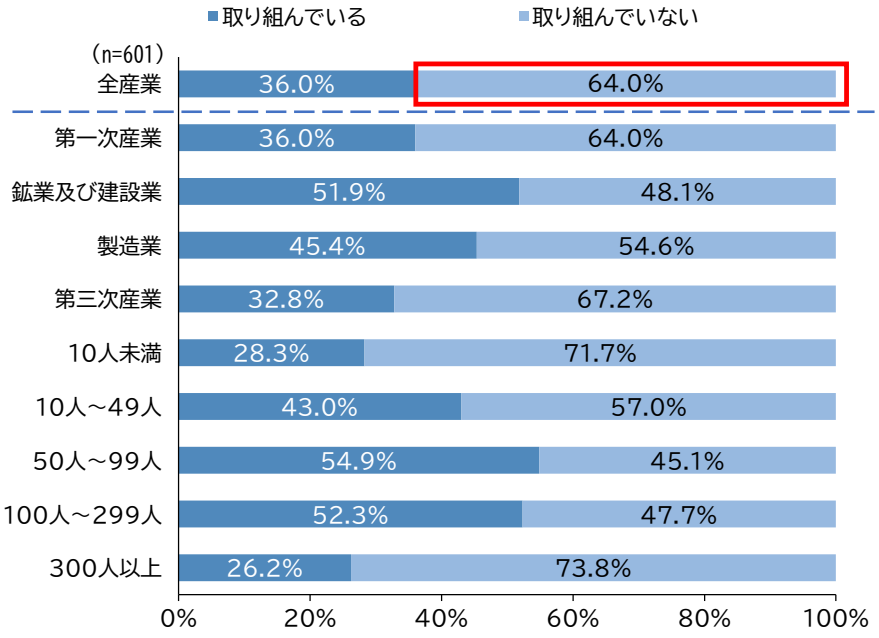
（3）ギャップの要因分析

前ページのアンケート結果によるギャップの要因を明らかにするため、脱炭素と外国人雇用について
個別にアンケート調査を実施

① 脱炭素

「経営に影響がない（41.1%）」、「取組方法などの情報が乏しい（40.7%）」などが、ギャップの要因と考えられる

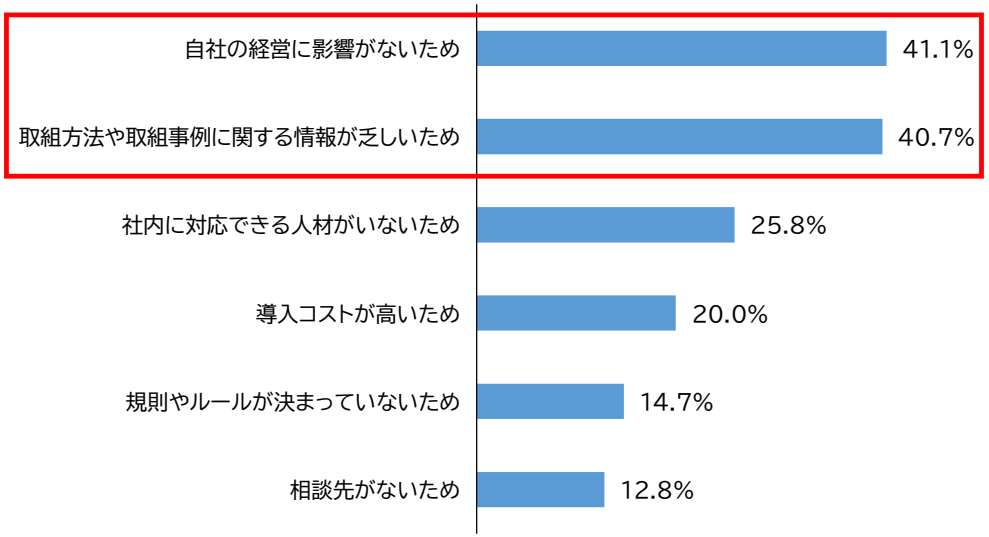
■ カーボンニュートラルに向けた取組状況



（資料）福山市調査（2024年）

■ カーボンニュートラルに取り組んでいない理由

（当てはまるものすべて回答）



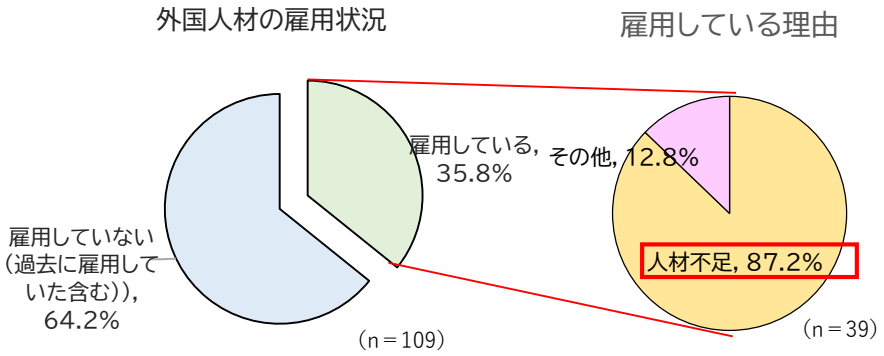
（資料）福山市調査（2024年）

- 周知啓発の強化など経営者の意識醸成
- 事例の情報発信や相談体制の充実　　などを検討

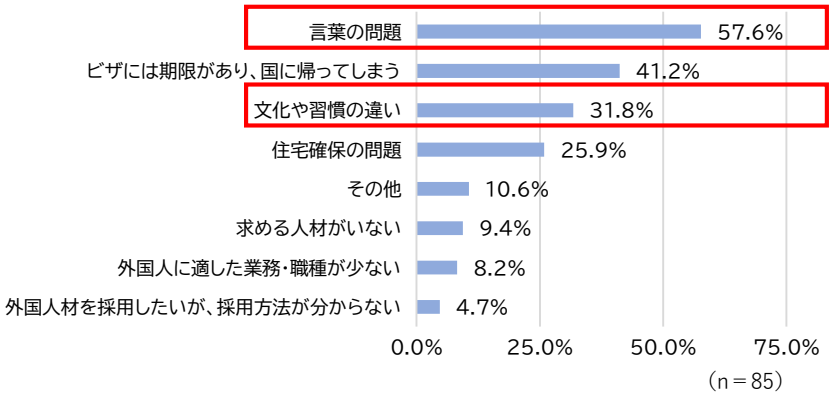
② 外国人雇用

「言葉の問題（57.6%）」、「文化や習慣の違い（31.8%）」などが、ギャップの要因と考えられる

■ 外国人材の雇用状況



■ 外国人材確保の課題 （複数回答）



（資料）福山市調査（2024年）

【前回の戦略会議での委員意見】

○ 情報共有や生活支援が必要

- 外国人雇用に関する基本的な情報や正しい情報を届ける必要がある
- 就学や医療など、生活面に関する企業では解決できない課題に対して不安がある

- 外国人雇用の情報共有やサポート体制の充実
- 日本語習得支援など生活支援を含めた取組

などを検討

２　注力分野に関する取組

■　注力分野における連携強化に向けた、産学金官民で役割分担のもと行う先行的な取組や今後の検討の方向性

（1）多様な人材の活躍

外国人雇用

○ サポート体制の充実【民間主体の取組】

企業の人材不足解消に向けた支援

金融機関等による外国人労働者受入の支援

- 出入国などの公的手続や生活に必要な契約、日本語等の学習機会の提供などに関するサポートを実施

留学生の地元定着促進

穴吹カレッジ「びんご留学生支援会」の設立　【学校法人 穴吹学園】

- 企業に対する採用支援セミナーの開催による不安や疑問の解消
- 留学生と企業との交流会や説明会を通じた備後圏域企業への就職促進
- 1月にびんご留学生支援会設立、2月に留学生向け企業説明会を実施予定

○実績　穴吹カレッジ「香川留学生支援会」

- 県内企業内定率
  38%（2019年）　➡　77%（2022年）

商工会議所などと連携し、地元就職を支援

○ 情報の共有

備後圏域外国人雇用入門セミナー　【福山市】

- 入門編、活用編に分けて1月に開催
  入門編：在留資格の種類や雇用方法など、外国人労働者に関する基本的な内容
  活用編：就業可能な業務の範囲や外国人を雇用している企業の経験談の紹介

【今後の方向性】

○ 産学金官民の役割分担のもと、外国人雇用の仕組みづくりや生活支援の充実を検討

- 民間による企業と外国人労働者をつなぐ体制の構築
- 外国人雇用に関する情報共有　など

（2）圏域の稼ぐ力の向上

観光

- 観光客数が増加傾向の中、**圏域内の観光協会等は圏域内コンテンツを活用した旅行商品を展開**
- また、今後、圏域内では世界バラ会議などの**大型イベントが開催**予定

○ 観光協会等、民間による企画・取組一例

ハイドロびんごでめぐる瀬戸内海クルーズ【福山・尾道】

- 水素で動く旅客船「ハイドロびんご」を活用した観光ツアー
- 「定置網体験」や「阿伏兎観音 参拝」、「造船所見学」など寄港地ごとのメニュー

サイクリングツアーSHIMANAMI【福山・尾道】

- しまなみ海道を渡り、風光明媚な景色を楽しむツアー

- La Malle de bois（ラ マル ド ボア）で行く！白石踊鑑賞＆体験ツアー【笠岡】
- ゴルフツアー【世羅】
- 紅葉の今高野山龍華寺と三景園・佛通寺・御調八幡宮【世羅・三原・尾道】 など

○ 今後、圏域内で予定されている大型イベント

第20回世界バラ会議 福山大会2025（2025年 5/18～5/24）

- 世界40か国が加盟する大会（3年に1度の開催）
- 世界中のバラ愛好家が集まる（約700人）
- 2024年度は、1年前イベントなどを順次開催

第20回 世界バラ会議 福山大会 2025
WFRS 20th WORLD ROSE CONVENTION 2025 in FUKUYAMA

第19回日本スカウトジャンボリー（2026年 8/4～8/10）

- 全国のスカウトと指導者が国内外から参加するイベント（4年に1度の開催）
- 約8,000人が参加

【今後の方向性】

○ 共通の観光資源の活用や大型イベントとの連携など、テーマを絞った広域観光を検討

- 民間による市町共通のコンテンツを活用した商品造成の促進
- テーマごとの情報発信強化　など

参考

脱炭素　資源循環・脱炭素化に向けた実証的な取組（下水道革新的技術実証事業※の活用）

- 下水汚泥の脱水ろ液からリンを回収し、リン含有バイオ炭肥料・堆肥を生産（特殊処理したバイオ炭を活用）
- 肥料や堆肥を圏域内の農作物等に活用するなど、資源循環の仕組みを構築
- バイオ炭由来の肥料を田畑に使用することで農地への炭素貯留（カーボンマイナス）となり、圏域の脱炭素化にもつながる

※下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）
- 国交省の令和5年度補正で採択
- 国総研から下水道革新的技術に関する研究を受託
- 実証期間は令和6～8年度の3年間

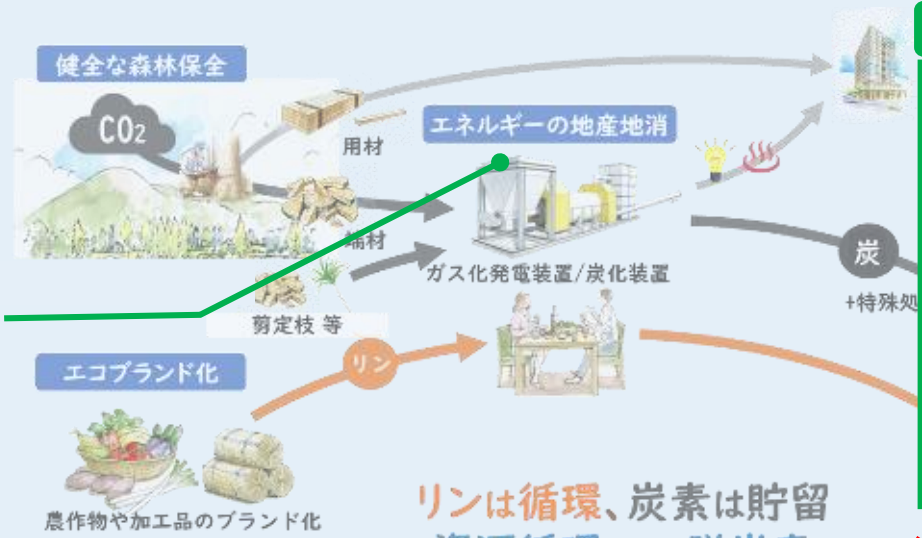
神石高原町　民

木質バイオマス発電施設で発生する「炭（バイオ炭）」を活用
- 2024年12月稼働予定
- 下水処理場で特殊処理したのち、リン回収に活用

福山市　官　民

汚泥脱水ろ液からリンを回収し、「リン含有バイオ炭肥料」を生産
- **リン回収装置**を設置中（松永浄化センター内　2024年度末 完成予定）
- 特殊処理をした炭（リン吸着バイオ炭）で、**下水汚泥の脱水ろ液からリンを回収し、リン含有バイオ炭肥料を生産**

リン含有バイオ炭肥料



福山市・府中市・世羅町など　民

農業に「リン含有バイオ炭肥料・堆肥」を活用
- 圏域内で生産される農作物などに、リン含有バイオ炭肥料・堆肥を活用
- バイオ炭由来の肥料を田畑に使用することで、炭素を農地に貯留し、環境を保全

圏域内外で調整中　民　（福山市、府中市、神石高原町）

「リン含有バイオ炭堆肥」を生産
- **堆肥センター**等と連携し、リン含有バイオ炭堆肥を生産

【今後、活用の可能性を検討】

３　その他の取組に関する状況報告

（1）福山市立大学 新棟整備計画の策定

- 2027年（令和9年）4月、新学部（情報工学部）開設
- **企業等の即戦力となり、地域の未来を開拓できるエンジニアを養成**
- 新学部の設置を契機に、大学の新たなイメージを発信するためのシンボルとなる新棟の整備方針等を取りまとめた「新棟整備基本計画」を策定（2024年9月）

【新棟イメージパース】

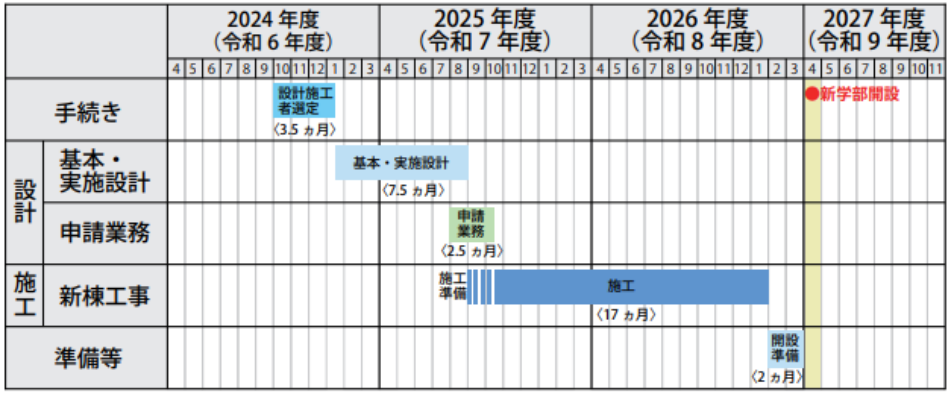
港町キャンパスや小松安弘記念館のハブとして大学全体の機能を拡充させ、学びや研究成果の地域への還元、地域・企業との共創による新たな価値を創出できる施設をめざす

【基本機能】

- ◆ **1階**：地域・企業の課題解決・発展につなげる「**イノベーション共創拠点機能**」
- ◆ **2～4階**：実践的かつ専門的な教育研究活動ができる「**教育拠点機能**」・「**研究拠点機能**」を整備する。

【新棟整備計画地】

【事業スケジュール】



※　全体的な工期短縮等が期待できる基本設計 DB 方式※を採用

※　設計（Design）と建設（Build）を一つの契約で包括的に請け負う方式

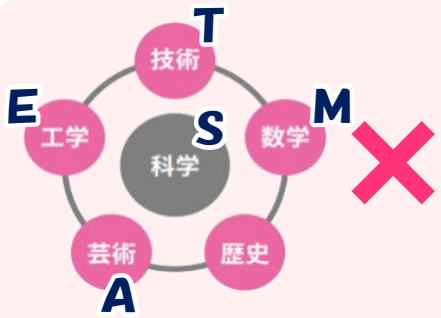
（2）（仮称）子ども未来館の整備

- 備後圏域の小学校高学年から中学生をメインターゲットとし、子どもたちが最新の科学技術に触れ、「発見」「創造」「発表」の力を育む
- 旧福山市体育館跡地に整備、2026年度（令和8年度）着工予定
- 2029年度（令和11年度）中のオープン予定

【基本理念】

知的好奇心を喚起し、未来に向けて挑戦する心を育む

”STEAM”教育分野を扱いながら、同時に未来を考える上での大切な視座を与える要素として”歴史の視点”を取り入れ、各分野を設定



先進的なデジタル技術などを活用した体験

×

技術への理解とスキル向上に向けた学び

【基本機能】

- ◆ **展示機能** 科学を中心とする幅広い分野でインタラクティブ（双方向のコミュニケーション）な体験
- ◆ **活動機能** 「講座・創作・実験」などの様々なプログラムを実施
- ◆ **連携機能** 学校や大学、企業、団体等と積極的に連携
- ◆ **交流機能** 世代や属性を超えた自由な交流を促進

【事業スケジュール】

2025年度	DBO方式※により整備事業者選定
2026年度～	設計、施工
2029年度	オープン

※ 設計（Design）、建設（Build）、運営（Operate）の3つのフェーズを一つの契約で包括的に請け負う方式

（3）県立広島大学大学院によるビジネスリーダー育成

- **中国エリアで唯一**の経営系専門職大学院（MBAを取得可能なビジネススクール）
- 経営戦略やマーケティングなどビジネスマネジメント力を身につけた**次世代のビジネスリーダーを育成**
- イノベーション論の第一人者である**一橋大学名誉教授の米倉誠一郎先生が研究科長に就任**（令和6年10月）

① MBAプログラム 備後地域サテライトキャンパスの強化

【プログラム概要】

研究科/専攻名称	経営管理研究科/ビジネス・リーダーシップ専攻
学位名称	経営修士（専門職） Master of Business Adminidtration（MBA）
入学定員	25人
標準就業年限	2年
キャンパス	広島キャンパス（広島市南区宇品東）
授業科目数	52科目

※備後地域サテライトキャンパス（福山市内）で受講可能な科目数 増加

2022年度：2科目
↓
2023年度：4科目
↓
2024年度：6科目

備後での学びやすさ向上

※複数科目を選択するセット受講を変更し、1科目から受講可能に

② SMOフロンティア研究所の設立（2024年7月20日「中小企業の日」）

※SMO：Small and Medium sized Organizations（中小企業・中小規模組織）

全国の9割以上が中小企業であるにも関わらず、**多くのMBAプログラムでは大企業の事例**を使っている

SMOフロンティア研究所を設立し、
- 中小企業と大企業の比較研究
- 中小企業の経営課題や教育ニーズ等の調査

などを通じて

中小企業向けのプログラムを開発し、オンライン受講のSMO新コース設置を目指す

※実践的な企業課題を踏まえた研究に連携可能な企業を募集中（一部先行して連携中）